

「知能の壁」を超えて

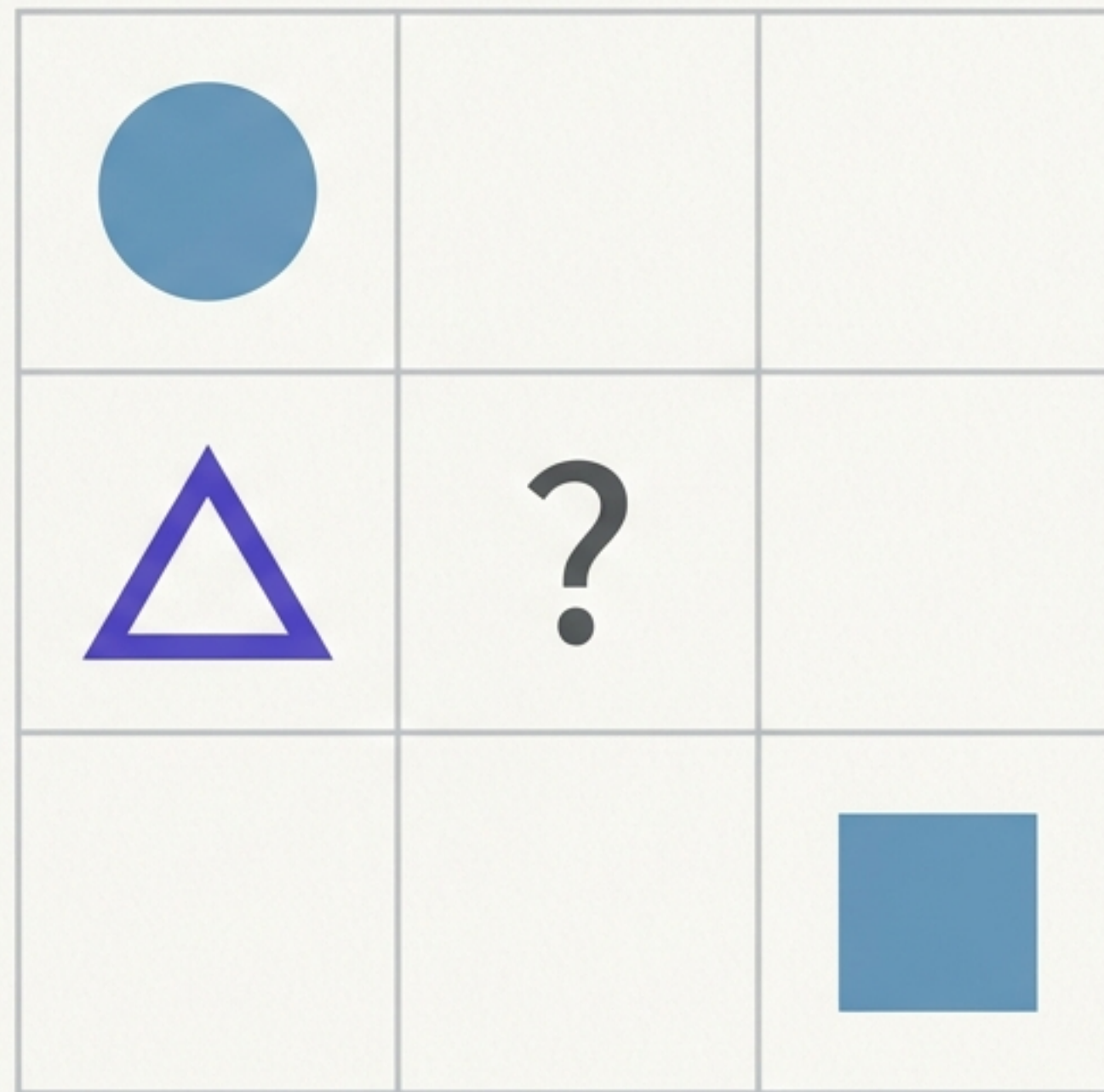
Poetiq (Mix) が切り拓く、汎用AI推論の新時代

AGIへの新たな試金石「ARC-AGI-2」

ARC-AGI-2は、AIの汎用的な推論能力を測るために設計された新しいベンチマークです。

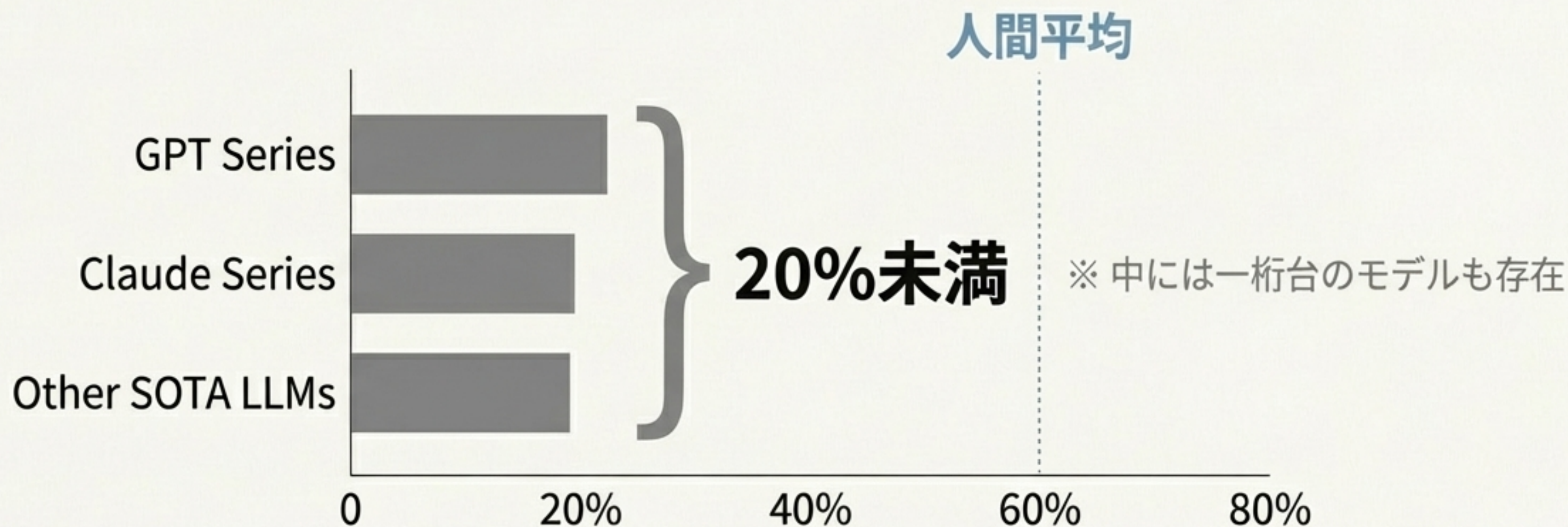
その特徴は「人間には容易だが、AIには極めて難しい」抽象的な推論課題にあります。

人間チームの平均正答率: **約60%**



現行最強モデル群が直面した「知能の壁」

OpenAIのChatGPT系列やAnthropicのClaudeシリーズを含む、主要な大規模言語モデル（LLM）は、この壁を越えることができませんでした。

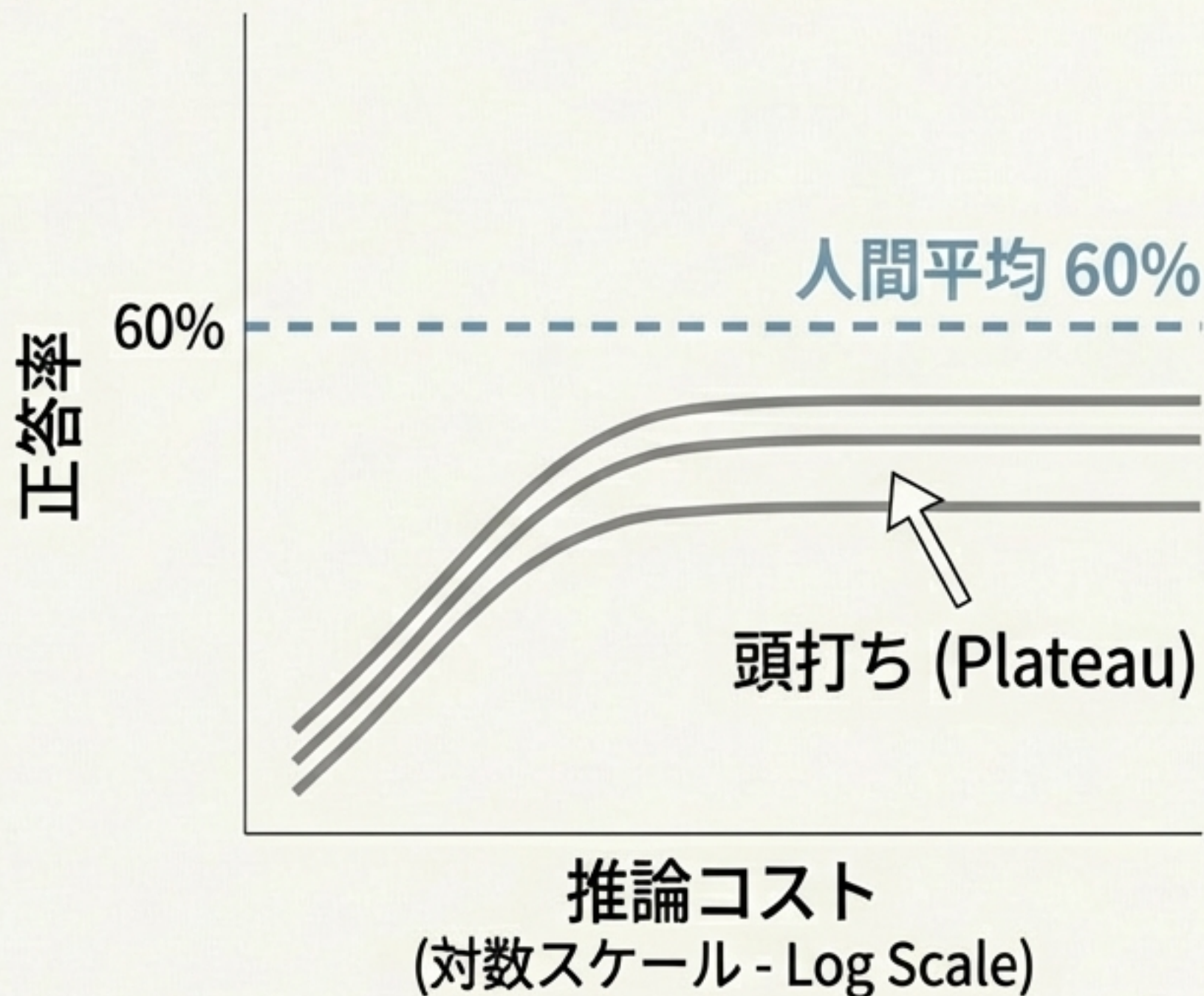


なぜ計算資源を増やしても解けないのか？

「逆転現象」 (The Reversal Phenomenon)

多くのモデルでは、1タスクあたりの推論コスト（計算資源）を投入しても、ある時点でスコアが頭打ちになる現象が確認されました。

これは、単純な規模の拡大や推論時間の延長だけでは、汎用的な知能には到達できないことを示唆しています。



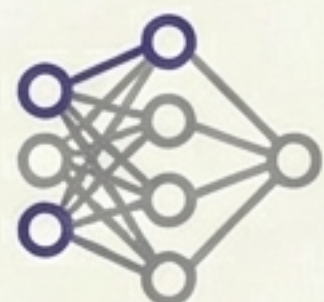
答えはモデルの規模ではなく、その上の「システム」にあった

Poetiqは、既存のLLMを道具として利用し、その上に独自の「メタシステム」を構築することで、この課題を解決します。

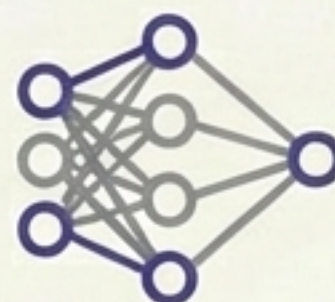


最高峰LLMを組み合わせる混合戦略「Poetiq (Mix)」

Poetiq (Mix) は、2つの最高峰LLMを戦略的に統合した構成です。



Google DeepMind: **Gemini 3**

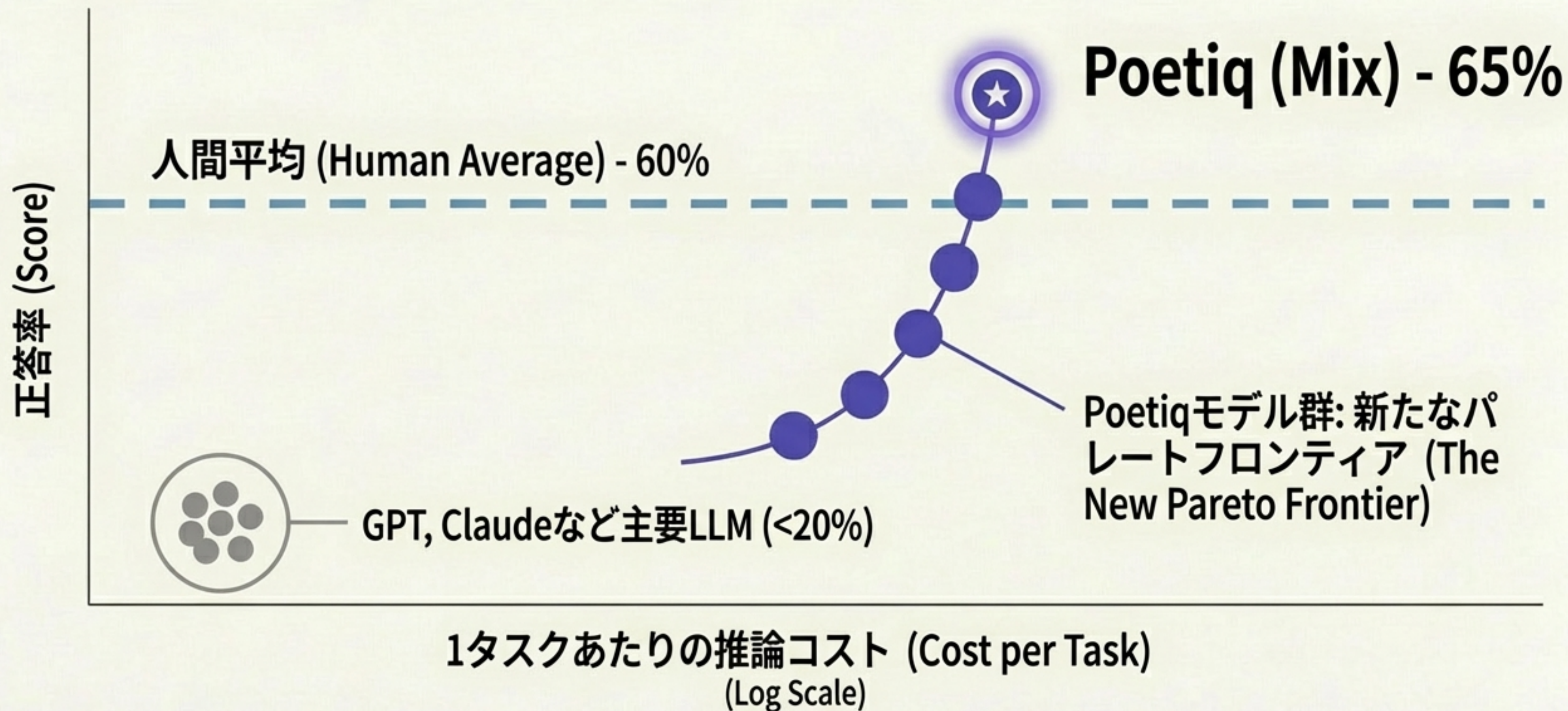


OpenAI: **GPT-5.1**

Key Capability

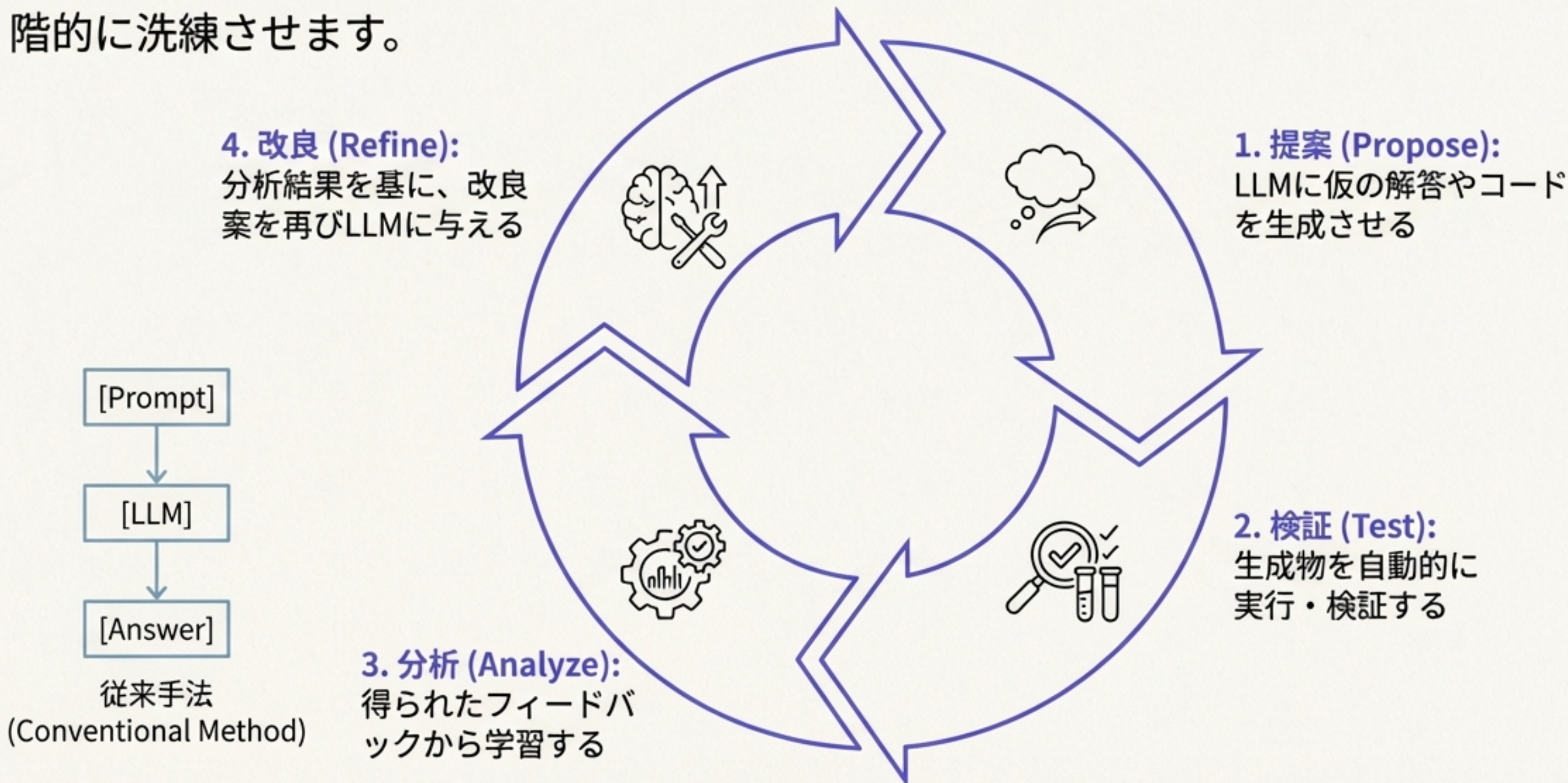
「どんな基盤モデルの上にも知能を構築できる」アーキテクチャにより、新モデルの公開から数時間以内に統合を完了。これは、システム自体の柔軟性と高度な設計思想の証明です。

人類平均を超えた、ただ一つのAI

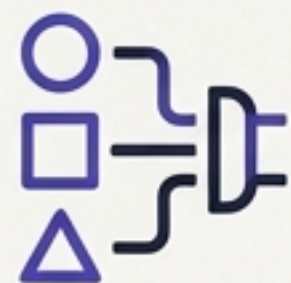


Poetiqの自己改良型「推論ループ」

単一のプロンプトで答えを出す従来手法とは異なり、Poetiqは再帰的なプロセスで解答を段階的に洗練させます。



Poetiqを支える戦略的アーキテクチャ



モデル非依存 (Model-Agnostic)

どんな基盤モデルの上にも構築可能。
将来のモデル進化にも即座に対応。



再帰的ループ (Recursive Loop)

解答を一方的に出力するのではなく、
試行錯誤を通じて段階的に洗練。



自己監査 (Self-Auditing)

自ら進捗を監視し、十分な解が得られれば
プロセスを停止。無駄な計算を回避。



オープンソース (Open Source)

メタシステムのコードは公開されており、
高い透明性と再現性を確保。

最適なモデルを、最適なタイミングで使う知能

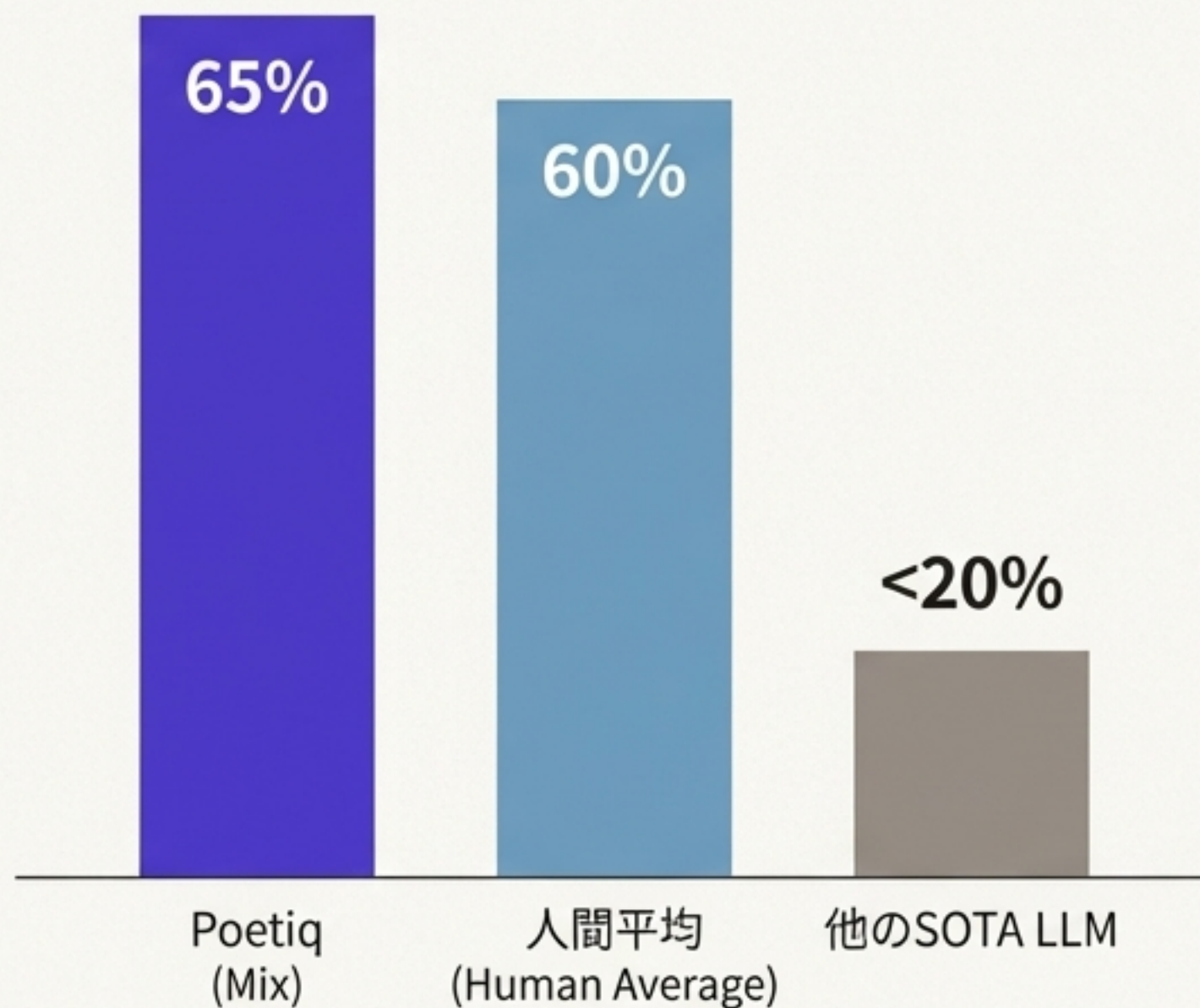
Poetiqのメタシステムは、単にモデルを組み合わせるだけではありません。

「どの部分問題を、どのモデルで解くべきか」
「計算が必要な場合、コードを生成して実行するか」

こうした戦略的な判断をシステム自身が自動で行います。

Poetiq (Mix)では、Gemini 3とGPT-5.1の強みを**適材適所で引き出し、互いの弱点を補い合う**ことで、単体利用を遥かに超える性能を達成しました。

汎用推論能力における、圧倒的な性能差



Poetiqの推論戦略は、既存の最先端モデルと人間平均の両方を明確に上回る結果をもたらした。

知能は「規模」から「戦略」の時代へ

**AIの知能を引き上げる鍵は、
モデルの巨大化ではない。
問題解決プロセス そのものの
洗練にある。**

AGI研究の新たな指針

Poetiqの成果は、計算コストの増加を最大限に活かすには、洗練された推論アルゴリズムが不可欠であることを証明しました。

今後のAGI開発は、Poetiqのような自己改良型の推論システムが、真に人間を超える柔軟な知能を実現する鍵となるでしょう。

